

東証初の5万円台



米中对立緩和期待

高市政権積極財政見込む

週明け27日の東京株式市場で、日経平均株価(225種)が取引時間中に史上初めて5万円を超えた。高市早苗首相が積極的な財政政策で景気を刺激すると見込んだ「高市トレード」が相場をけん引し、生成人工知能(AI)市場の拡大を予想した半導体関連銘柄の人氣が追い風となった。前週末の米国株高に加え、米国と中国の対立が緩和するとの期待を支えに、節目を一気に抜けた。



日経平均株価が5万円を超えたことを示す株価ボード
27日午前9時半前、長岡市大手通1

少額投資非課税制度(NISA)の普及で投資マネーが流入していることも株価上昇の要因となっている。投資家が株高で得た利益を消費に回す好循環も期待される。ただ、急ピッチで株高が進んだことから、相場の過熱感を不安視する声も市場では出ている。

平均株価は2024年2月に史上最高値を約34年ぶりに更新し、翌3月に4万円を超えた。高市氏が自民党総裁に就任後、初の取引

平均株価はバブル経済期の1989年末に終値で3万8915円を付けた後、長期低迷した。2009年3月にはバブル後の最安値となる7054円を記録。12年に安倍晋三首相が就任し、大規模な金融緩和などを軸とする「アベノミクス」が始まったのを機に上昇基調を取り戻した。